

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No 39～

平成 28 年

9 月号

毎月 10 日発行

一般社団法人日本書字文化協会

代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 東京都中野区中野 2-13-26 第一岡ビル 3 階

電話 03-6304-8212 FAX 03-6304-8213

ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

目次

- ◇ えんぴつ指導者ライセンス試験受験資格小5から 2
- ◇ 新硬筆検定合格、ごほうびシールできる 2
- ◇ コラム「こころ」(大平恵理) 3
- ◇ 音読暗唱指導スタート 4
- ◇ えんぴつ指導者ライセンス講習会予定 4
- ◇ コラム「きのう・今日・あす」(渡邊啓子) 5
- ◇ 第5回伝統文化大会要項決まる 6
- ◇ コラム「教学半」(池田圭子) 7
- ◇ コラム「こ・こ・だ・けの話」(谷口泰三) 8

えんぴつ指導者ライセンス試験

受験資格年齢を大幅引き下げ

高校生以上→小学5生年以上

検定試験の積み上げと関係なく実施されている「えんぴつ指導者ライセンス（資格）試験」の受験年齢を大幅に引き下げます。これまで高校生以上だったものを小学5年生以上にするもので、今年9月から実施します（関連記事4面）。

同ライセンスは、筆記具として鉛筆を使いますが、字はひらがな46文字を対象とします。ひらがなは、書写書道の基本をなすものとして指導者が身に付ける第一の要素でもあります。また、シニアだけでなく小学上級、中学生の間でも書の学びの励みとしてこのライセンス受験に参加したい、との希望が高いことに応えるものです。各教場でも、ぜひ生徒さんに受験をお勧めください。

新・硬筆検定

新・合格シール、ごほうび用シール完成

書文協は、硬筆の楷書と行書を一本化した新・硬筆検定（硬筆課題検定）を始めましたが、この受験に使う「合格シール」（写真左）とごほうび請求用に貯める「ごほうびシール」（同右）が新デザインで出来上がりました。



シールを貼る台紙も新しくされました。活用してください。

現在の半紙検定、本検定も新しいごほうびシールを使用いたします。

11/3、浅草公会堂で第5回総合大会優秀作品展

第五回全国書写書道総合大会は9月16日（金）締め切られました。この優秀作品展を文化の日の11月3日、東京・浅草の公会堂展示ロビーで盛大に行います。書文協専修学院の生徒作品展も併設します。公会堂は観音様のすぐ前。秋の1日、東京の代表的な下町を散策がてら是非ともおいで下さい。入場無料です。

こ ろ

大平 恵理（書文協会会長）

平常心



バスの時間に間に合わせようと、自宅マンションから公道に出ようとして段差を踏み外し、左足を捻挫しました。診察していただいたところ、小指の付け根の骨にヒビが入ったそうです。軽くて幸いだったと自分なりに心を慰めましたが、完治するまでにしばらくかかりそうでなかなか大変です。

車の教習所の先生から呆れられたほど、昔からおっちょこちょいなのですが、滅多に怪我はしないのです。それなりに気を配って歩いているつもりなのです。よっぽどぼーっとしていたのでしょう。その気の散り方が少しショックです。

思い当たる節はあります。書文協の日々の忙しさに加えて、中2, 中3の年子の娘のしつけなど、あれやこれやで気が散っているのだと思います。平常心を保つことをモットーとしている私としては、お恥ずかしい限りです。

書は呼吸である、というのが私の持論です。姿勢を正し、用具を正しく持って、心を鎮めて紙に向かいます。そのためには呼吸が整っていなければいけません。呼吸は、心理的なものに左右されます。心が乱れていると、いい字は書けないのです。お手本などを書く機会の多い私としては平常心を保つことがとても大切です。

数年前、ある美術館で開かれた墨蹟展で一休宗純和尚の作品をみて、その素晴らしさに感嘆しました。字形が良いからというのではないのです。漢字の書の中で、途中心の有り様そのままに乱れが顕われ、しかし全体を通じて平常心を欠いていない表現であり、和尚さんの息遣いととも全体が絶妙のバランスを保っているように感じました。

家族からは「お母さん少し痩せなさいよ」と言われています。「そういう問題ではないのよ」と反論しているのですが、平常心を保つことの難しさを痛感しているこのごろです。修行あるのみですね。

音読暗唱用テキストを有料頒布します

文部科学省による2020年大学入試改革など、学校教育で言葉の力、表現力を養うことが大きな目標となってきました。多くの字を書く書写書道は言葉・文章の力養成と極めて密接です。こうしたことから書文協は、年来の計画だった専修学院での書写書道の時間（1時限90分）の最初5分間に皆で声を上げて音読し、暗唱する指導を9月から始めました。

最初はペラ紙を使いますが10月中には小冊子「音読・暗唱教材 No1」を発行します。古文から外国文学の名作まで、古今東西から選りすぐった教材を集めており、大平恵理・書文協会長の揮毫による課題に谷口泰三・専修学院作文教室講師（書文協専務理事）が解説を付けています。A4判20ページほどを予定しています。1冊200円（本体価格）。ご希望の各教場にも頒布します。会員教場は特別価格25%引きの150円（同）とします。

えんぴつ指導者ライセンス受験資格引き下げ

物書き戦士養成、書の学びの励みに

このライセンスは、グループの勉強会での指導者を務める時などに生かされていますが、書文協では子供たちが学校の書写授業で先生を助けてお友達に書き方を教えるのにも役立てるように、受験年齢資格をこれまでの高校生以上から小学5年生以上に大幅に引き下げることとしました。

試験は、ひらがな46文字の実技が中心ですが、それだけでなく、漢字の草書体から生まれた歴史、字源など基礎知識を指導者として教えるために必要なものです。えんぴつ指導者講習会は、本部から出向いた講師が6時間の講習を行い、最後に修了試験を行って持ち帰り、審査するものです。

<費用>

費用は講習会受講を合わせて10,800円。受験だけでもできますが、教場に属している生徒さんで教場指導者の推薦がある人に限ります。書文協が認めた受験場（教場など）で受験してください。受験料は3,240円。

<当面スケジュール（予定）>

◇11月19日 名古屋

◇12月3日 大阪

◇11月20日 東京中野

◇3月19日 東京中野

◇11月26日 福岡

きのう

今日

あす

渡邊 啓子（書文協副会長）

備前焼



多々ある好きなものの一つに器があります。
器があれば見て回り、和洋中は問わず、気に入ったものを手に取ります。その中でも小学生の頃から常に一番の座にいるのが「備前焼（びぜんやき）」。

一見汚い印象の方もいらっしゃると思います。備前焼は焼色の特徴で「胡麻（ごま）」「玉ダレ」「牡丹餅（ぼたもち）」「緋襷（ひだすき）」「棧切（さんぎり）」「練り込み」「黒備前」「石はぜ」「紫蘇色」「被せ焼き」「青備前」ほか多くの呼び名があります。

一つとして同じものがない表情。それを使うことで艶が出てさらに表情が変化していくのも魅力です。さらに、好きな焼色や作家さんが一緒の方に巡り合うと話しも弾みます。一番驚いたのは、数年前に再会した当時ガキ大将だった同級生で、離乳食も備前を使うという凝りようでした。

気分転換しようと中野事務局で使用しているカップを先日交換しました。最初は「緋襷」（ひだすき）にしたのですが「ここはやっぱり一番好きな「棧切」（さんぎり）でしょう。」とすぐに変更。たったそれだけですが、気分が高揚するのです。流れ過ぎていくような時間の中でも一息楽しみます。



第 5 回伝統文化大会要項決定 (抜粋)

<スケジュール>

◆平成 28 年度全国年賀はがきコンクール

◆平成 28 年度学生書き初め展覧会

応募締め切り 平成 29 年 1 月 20 日 (金) 必着

結果発表 2 月 6 日 (月) 連絡開始

優秀者学校伝達 2 月末までに

賞状・賞品送付 3 月 5 日 (土) から

表象・展示会 3 月 5 日 (土) 東京・中央区立産業会館

特別賞入賞者一覧冊子 3 月 5 日発行

3 月 12 日ホームページにアップ予定

<特色>

特色 1 指定課題、参考手本があります

特色 2 「評価の観点」が発表されます

指定課題に沿って、審査で評価する観点をワンポイントで明示した書です。

書文協は、各指導者の教えを第一としていますが、個人応募者はもちろん、各教室でも大会応募の補助資料となるでしょう。

特色 3 権威ある審査委員がそろう全国大会

特色 4 特別賞入賞者の学校伝達

特色 5 園・学校応募に特典

大会参加予定者一人につき、参考手本 1 枚、年賀はがき清書用紙 (書文協作成) 2 枚を無料提供しています。

<前回からの変更点>

◇ 年賀はがきコンクールは指定課題の硬筆作品のみとします。

◇ 学生書き初め展の硬筆の部は廃止します。書き初めには自由課題二部はそのままあります。

<出品料> 前回より年賀はがきは 10% 値上げ、書き初めは据え置き

(消費税尾 8% 小数点以下切捨)

◇ 全国年賀はがきコンクール

・幼・小・中 4 2 8 円 ・高・大・一般 7 3 2 円

◇ 学生書き初め展覧会

幼・小・中 5 4 0 円 ・高・大・一般 9 0 7 円

* 個人出品料は一律 1 点 1, 2 9 6 円

教 学 半

教えるは学の半ばなり（書経から）

池田 圭子（書文協教学参与）



去る 8 月 18、19、20 日、北山幼稚園(東京都府中市)で毎年恒例の展示会が行われ、私が指導した書写作品も展示されました（写真）。同園での就学前幼児の墨書授業プロジェクトも今は 3 期目の年中さんを指導しています。この展示会で飾られたのは 2 期目の子供たちの作品でした。

昨年 12 月まで指導していた 1 期目の年長との 1 歳という年齢の差を大きく感じながら、1 月から指導を始めました。皆、年中さんです。水筆から始まり、5、6、7 月の 5 回の墨での練習、そして仕上げをしました。最初は文字を書くこともままならなかった園児たちも、最後の仕上げでは、おしゃべり一つせずに真剣な眼差しで筆をとり、展示会では一人一人の作品が簡易軸装で飾られました。保護者からも「感動した」「素晴らしい」などのお褒めの言葉を頂いたようです。14 回の一人 20 分というわずかな時間でしたが、書写は姿勢、筆の持ち方が大切なのだということが、少しでも分かってもらえて良かったと思います

9 月 6 日からは、来年の展示会に向けて 4 歳 5 歳の年中の指導が始まりました。一年間の指導は初めてのことで、今までとは違いゆっくりと姿勢と筆の持ち方をやろうと考え、初回は水さえも使用しませんでした。しかし、園児達は展示会で見た作品の印象がかなり強かったようで、「字はかかないの?」「もう終わり?」などの声が多数聞こえ、とても意欲的なことに驚きました。

お腹と背中にグーを一つずつと言っても自分のお腹をへこましてしまう園児さん達です。焦らずに、でも書きたいという気持ちを大切にしながら、これから一年間楽しくやっていけたらと思います。



こ・こ・だ・け の話

覚え、書きたくなる日本語を

谷口 泰三（書文協専務理事）



書文協の専修学院で作文教室の先生をやらされています。やらされている、と言うと語弊がありますが、嫌だと言うのではなく、元新聞記者だからと言って自信がないよ、というのが本音です。新聞記者は歴史のウォッチャーと自負していますが、文筆家ではないのです。と、言いながら、どんどん責任は重くなる一方です。

今度は、音読暗唱指導というのを始めさせられました。書写書道授業（90分）の毎回、最初の5分間、子どもも大人も一緒に大きな声で文章を音読します。課題文は月替わり。最後には覚えてもらいます。つまり、暗唱できるまでになってもらうのです。通常は担当の先生が音読指導しますが、課題替わりのときは谷口が指導に立ちます。音読暗唱テキストづくりも筆者の仕事です。

多くの文字を書く書写書道の学びは、言葉の力、表現力を養うのに最適、というのが書文協の年来の理念です。言葉の力の大事さは今回の学習指導要領（2008年3月公示）で強調されましたが、2020年の大学入試から、現在の択一式センター試験は廃止されて、記述式の表現力を見る試験に替える2020年入試改革が発表されて以来、この理念の実践が書文協の大きな課題となったのです。

そこで元新聞記者・谷口の出番と言うのは安易だと思うのですが、それはともかくとして、国際化がますます進む中で日本語の力を養い、自己表現力のある日本人を育てることは大事だと思います。

それで、浅学の老骨に鞭を打って、言葉、文章選びに打ち込む毎日ですが、音読指導は9月11日、本部月例講習会でスタートしました。教材は「竹取物語」。世界に誇る奇想天外のSF小説です。「(竹の中に) 三寸ばかりなる人、いとうつくしゅうていたり」。大平恵理会長が鉛筆で手書きした竹取物語の一節を小1からシニアまで、皆うれしそうに音読しました。覚えて、書いてみたくなる文を選んでいきたいと思います。